

平成11年度カスケードコンテナ装飾

木戸基文

平成10年3月からコンテナを用いたカスケードの装飾を始めたが、平成11年7月に配置の変更を行った。

配置の変更

カスケードを正面入口から大温室までの通路と位置づけ、来園者を大温室まで誘導する目的で配置の変更を行なった。具体的には、コニファーをカスケードの中央部に2列に並べて導線を確保し、その後方に草花のコンテナを配置し、華やかさを演出するように試みた。

植え替え

平成11年5月中旬に春から初夏へ、11月下旬に秋から冬へと模様替えを行ない、4月中旬と10月下旬にみどりの日と開園記念日のためにベゴニア・センパフローレンスやスプレーマムなどの草花を植えた。更に、集中豪雨（6月29日）と台風18号（9月24日）後に被害復旧のために植え替えを行なった。特に、台風の被害は著しく大部分の植物を植え替えることになった。また、観賞時期を過ぎたものは随時植え替えを行なった。

立体花壇は、5月中旬と9月中旬にベゴニア・センパフローレンスを、12月中旬にはピオラを植え付けた。



カスケード風景



立体花壇

新しく使用した植物

シカクマメ

5月に種を播き、あんどん仕立てにし、7月から展示を始めた。水色の花に清涼感があり、7～8月が観賞適期であった。また、9月からは果実が楽しめたが、台風18号で傷んだため撤去した。



シカクマメのあんどん仕立て

ノゲイトウ

5月に植え付けた。草丈が高いため量感が得られた。草姿に涼感があり、花期も長く、11月下旬まで使用できた。



ノゲイトウを使ったコンテナ

アサギリソウ

5月に植え付けた。クッション状に生育

し、量感が得られた。また、シルバーリーフのため涼感もあり、11月上旬まで使用した。

維持管理

かん水は、4月から10月までほぼ毎日行なった。

肥料は、植え替え時に緩効性化成肥料を元肥として与えた。更に、ハイビスカスなどの大型花木類は、7月に固形油粕と化成肥料を追肥として与えた。病気は、ペチュニアに灰色かび病、ゴールドクレストに赤枯病が発生した。特に、ゴールドクレストの被害は著しく、花壇植えのものは全て取り除くことになった。

今後の課題

正面入口からカスケードを眺めるとコンテナが目立ち、華やかな印象を与えるにはいたっていない。そこで、アイビーなどでコンテナ側面を被うとともに、芝地の花壇化を進める必要がある。

また、量感あるコンテナ作りに努めるとともに、植物の色彩にも考慮し、色彩的統一や鮮やかな色を多用することで、華やかさの創出に取り組む必要がある。